

【インタビュー】

歯科衛生士は 医院の宝であり、 一番の財産です。

山形市で、地域に住む人たちに「生涯にわたって健康をサポートするメンテナンス」を提供している佐々木歯科医院。「悪くなったら通院するのではなく、悪くならないために通院する」ことを目指して予防に力を入れています。「歯科衛生士と拡大鏡」をテーマに、院長の佐々木英夫先生と専任歯科衛生士の小林真弓さんにお話を聞きました。

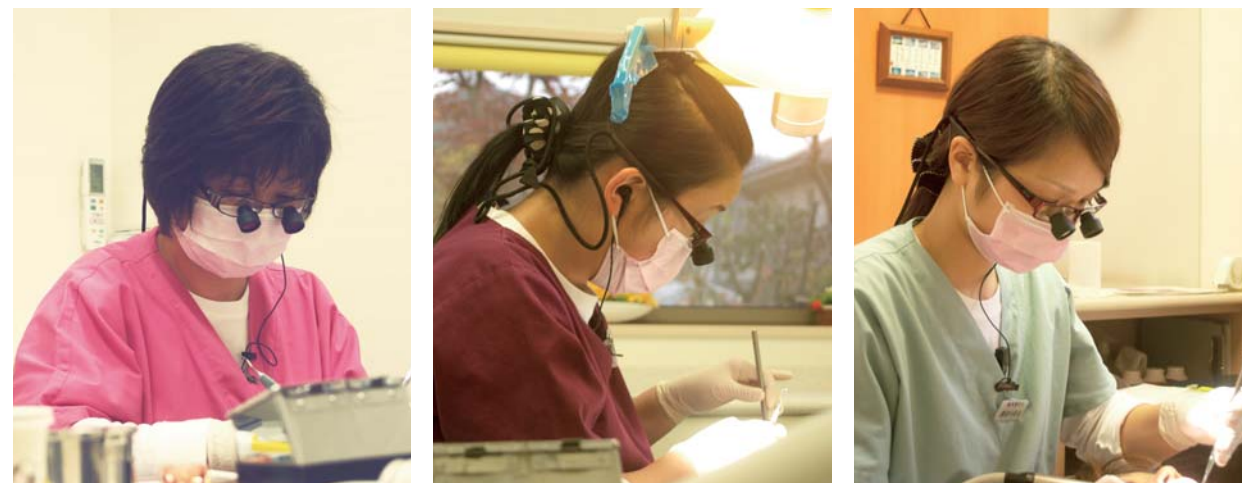
佐々木歯科医院（山形県山形市）
院長 佐々木 英夫 先生／歯科衛生士 小林 真弓 さん

—先生はなぜ、歯科衛生士さんにサージテルを導入したのですか？

佐々木院長 理由は2つあります。1つは、私が
見ているものと歯科衛生士が見ているものの誤差
です。たとえば、「CRにちょっとしたバリがあるから
研磨をしてください」と言われて見てみたら、カリ
エスだったということがありました。同じものを見
ているのに、歯科衛生士にはカリエスだとわから

なくて、診断の違いが起きてしまう。そこで、既に
サージテルを使っていた私と同じ倍率で見ても
いいと思ったのです。

もう1つは、歯科医師も歯科衛生士も体が資本
だということです。私自身、裸眼で診療していたと
きは、午後になると背中が痛くなり、疲れて仕方が
ありませんでした。サージテルを使うようになって
疲れなくなり、姿勢が悪かったんだと気づ



患者さんの口腔内を診る歯科衛生士さんは、全員サージテルを使用しています

きました。歯科衛生士にも、きちんと姿勢を良くすることで生涯にわたって長く仕事をしてほしい。これが導入した理由です。

—歯科衛生士さんがサージテルを使うようになって、どんな変化がありましたか？

佐々木院長 歯科衛生士が使うようになって良かったと思うのは、再チェックです。メンテナンスで、あやしい所を経過観察するのかどうかという判断の質がかなり上がりました。私の「これはもう少し様子を見た方がいい」という判断と彼女たちの判断がほとんど同じになったので、信頼して任せられるようになりましたね。

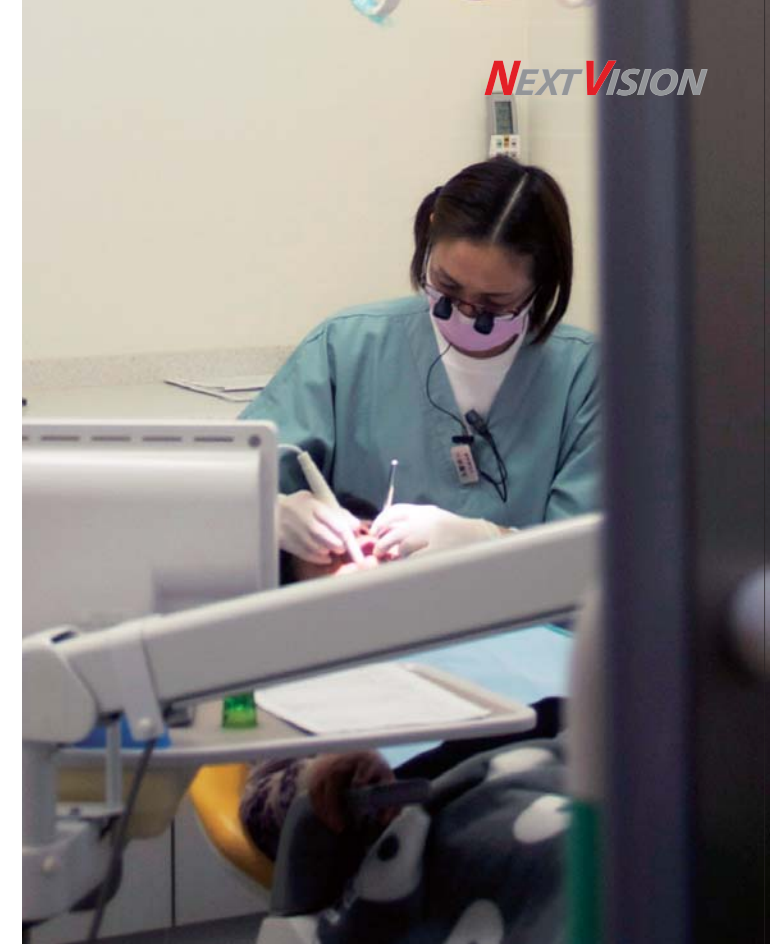
また、充填するかシーラントをするかというのは微妙な所です。う窩ができていたら誰が見ても充填ですが、う蝕が初期であればあるほど判断が難しい。そこで、サージテルの威力が発揮されるんです。

シーラントは、することによって逆に悪くすることもあります。ですから、今まではなるべくしなくておこうと思っていました。でも、拡大するとシーラントで耐えられる許容範囲がわかりますし、すると気泡を入れない精度の高い詰め方ができます。これらによって、早目にシーラントをして歯を守ろうという考え方に変わってきました。シーラントに関しては、拡大をしている医院としてない医院とでかなり差が出ると思います。

—次に、小林さんにお聞きします。サージテルを使うようになって、どんな変化がありましたか？

小林さん 細かい所がよく見えるのでずいぶん楽になりました。苦手だった臼歯部の遠心や、夕方暗くなると見えづらかった所も見えやすくなりました。取り残しがあるんじゃないかと不安だったSRPも、エアーをかけて縁下を目で確認しながらすることで、確実にできています。姿勢についても、前かがみにならずに顔を起こして作業ができるので、肩や目の負担が少なくなりました。

最初にサージテルをお借りしてつけてみたときは、慣れるまでに時間がかかるかな、と思ったんです。でも、2週間くらいで慣れましたし、つけて仕事をしているうちに、「なくてはならないもの」になりました。こういう仕事が楽になってドクターと同じ目線で見られる環境を整えてもらったのは、本当にありがたいと感じています。



歯科衛生士専用の個室で患者さんを診る小林さん。「歯科衛生士には、マイユニット、マイサージテルを使ってもらっています」(佐々木院長)

—最後にもう一度、歯科衛生士さんにサージテルを導入して良かったことを教えてください。

佐々木院長 研いでいないスクレーパーでスクレーリングをしても意味がないのと一緒に、見えないままやっても精度は上がりません。歯科医師と同じように、歯科衛生士も見えないものに関してはできないんです。

今後、歯科衛生士が増えることもあると思いますが、もちろんサージテルの導入は続けていきます。やはり勤めてくれるスタッフには、健康で長く働いてほしい。「疲れた」と言うようになると長続きしないですし、もっと患者さんを診てくれとは言えません。でも、疲れしない環境を作れば、1日に診る人数が1～2人増えても疲労は増えません。ですから、歯科衛生士の稼働日数に対する収益率も上がるんです。

歯科衛生士たちは自分の家族のように患者さんに接してくれていて、私が出て行かなくてもいい関係ができ上がっています。やはり、歯科衛生士は医院の宝であり一番大きな財産なんです。そういう意味でも、仕事がしやすい良い環境を作ってあげたいですね。